

令和5年度 奨励研究

北広島市と札幌国際大学の連携を通じた学生主導による学びの展開及び地域振興の探索

札幌国際大学スポーツ人間学部

スポーツビジネス学科<sup>1)</sup>・スポーツ指導学科<sup>2)</sup>

横山克人<sup>1)</sup> 平澤芳明<sup>1)</sup> 安田純輝<sup>2)</sup>

## 目 次

I. はじめに .....	1
I-1. 包括連携協定締結 .....	1
I-2. 北広島市 .....	1
I-3. 札幌国際大学 .....	2
I-4. 短期目標と中長期目標 .....	3
II. 目的 .....	3
III. 研究方法 .....	4
III-1. 調査対象 .....	4
III-2. 北広島プロジェクトが目指すアクティブラーニングの視点に立った取り組み ....	5
III-3. 調査方法の検討 .....	6
III-4. 質問紙調査法の検討 .....	7
III-5. インタビュー調査法の検討 .....	10
IV. 活動報告 .....	11
IV-1. 定例ミーティング .....	11
IV-2. 意見交換会 .....	13
IV-3. 企画発表 .....	15
IV-4. フィールドワーク .....	16
IV-5. 共同プロジェクト .....	16
V. 研究結果 .....	17
V-1. 質問紙調査の結果 .....	17
V-2. インタビュー調査の結果 .....	20
VI. 考察 .....	25
VI-1. 質問紙調査の考察 .....	25
VI-2. インタビュー調査の考察 .....	26
VII. まとめ .....	28
VIII. 今後の展望 .....	28

引用参考文献

## I. はじめに

### I-1. 包括連携協定締結

札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部と北広島市は、2023年3月29日に包括連携協定を締結した。本協定は、包括的な連携のもと、相互の資源を活用した連携を強化することが目的である。連携事項の具体的な事項としては、下記の通りである。

- (1) 地域活性化に関すること。
- (2) 地域支援に関すること。
- (3) 地域人材の育成に関すること。
- (4) 産業・学術・文化の振興に関すること。
- (5) その他、目的を達成するために必要と認められる事項

そこで札幌国際大学・札幌国際大学短期大学部は、スポーツ人間学部を中心に「北広島Project」を立ち上げ、上記の目的達成のため2024年4月から始動した。

### I-2. 北広島市

北広島市は、居住、観光、ビジネスにおける交通利便性と豊かな自然の中での暮らしが共存するポテンシャルがある一方で、急速な少子高齢化、人口減少による活力低下や地区の分散と都市機能の不足、流出が現状課題として挙げている<sup>1)</sup>。この諸課題の解決のため、官民連携プロジェクトとしてボールパークを整備することで、北広島市のアイデンティティを高め、居住者や企業立地を促進しながら、持続的な都市経営と社会課題の解決を図る地方都市の再生モデルの実現を目指している（北海道北広島市ボールパーク特設サイト）。所謂、ボールパーク構想である。

北広島市が掲げるボールパーク構想は、北海道のシンボルとして、新たな産業集積、起業促進、消費・雇用の拡大とコンパクトで健康な新たなライフスタイルを展開し、地域の持続的成長である。同市が目指す都市像（「希望都市」「交流都市」「成長都市」と北海道日本ハムファイターズの企業理念（Sports Community）が同じ方向であることを確認し、2016年6月から誘致を促進し始めた（北海道北広島市ボールパーク特設サイト）。

誘致活動に力を入れ始めた翌年、スポーツ庁は第2期スポーツ基本計画を示した。2017年度（平成29年度）から2020年度（平成33年・令和2年度）の第2期スポーツ基本計画の4つの方針にスポーツで「人生が変わる」「社会を変える」「世界とつながる」「未来を創る」ことを示している（スポーツ庁 公式HP）。そして、『スポーツイベントは経済効果を生み出すと共に、参加者や観戦者そのまま交流人口となって地域の賑わいの創出を可能にすることから、地域活性化の起爆剤として期待されている。』と報告されていることから、北広島市のボールパーク構想は、スポーツ庁の第2期スポーツ基本計画と合致していることがわかる。

### I-3. 札幌国際大学

札幌国際大学は、「自由」「自省」「自立」のもと、自ら考え、自ら行動し、自省する人を教育理念に掲げている。豊かな国際性を身につけ、より深く地域に根差し、これからの時代を支えていくチカラを育む学びを大切にしている（札幌国際大学公式 HP）。そのため、これまでも札幌市や清田区をはじめ、今金町、浦河町、ニセコ町など複数の行政と地域連携を深め、学生の正課外の学びの場として、共同プロジェクトを立ち上げ推進してきた。これらの地域連携共同プロジェクトは、本学の教育理念である「自ら…」学ぶ姿勢の醸成と、より深く地域に根ざす学びの場として最適な環境である。これについては、アクティブ・ラーニング研究 Vol.1・2に掲載されている数多くの論文で報告されている。

また、「自ら…」学ぶ姿勢は、近年の教育界の言葉を用いると「主体的」や「能動的」と同義語として解釈することができる。中央教育審議会（2012）の『新たな未来を築くための大学教育の質的転換にむけて（答申）』を一部抜粋すると、「学生が主体的に問題を発見し解を見いだしていく能動的学習（アクティブ・ラーニング）への転換が必要である。」と提言されている。

つまり、地域連携共同プロジェクトによる能動的学習（アクティブ・ラーニング）は効果的な手法であり、高等教育機関における地域連携は学生の主体的な学習の場の創出に必要な事業であると言える。とりわけ、地方大学での括りである本学は、地域資源の豊富さと地域に根差した教育環境整備は極めて重要な課題である。

## I-4. 短期目標と中長期目標

包括連携協定を締結することにより、北広島市の官民連携に加え、札幌国際大学が有する教育機関の知見や人材提供が可能となり、将来的には民間企業も交えた産学官民が共同するプロジェクトを展開することが目標である。中長期的に産学官民が共同するプロジェクトの展開を目標にする一方で、短期的には本学が有する知見と人材を提供し、北広島市が直面する諸課題について検討することが目標である。そして、これらの活動が産学官民プロジェクト展開の一助となることが将来的な目標である（図1）。

北広島 Project の初年度は、本学が有する人材（学生）の視点から北広島市について文献調査および実地調査を行い、課題の抽出とその課題解決に向けた能動的学習（アクティブ・ラーニング）に着目した。

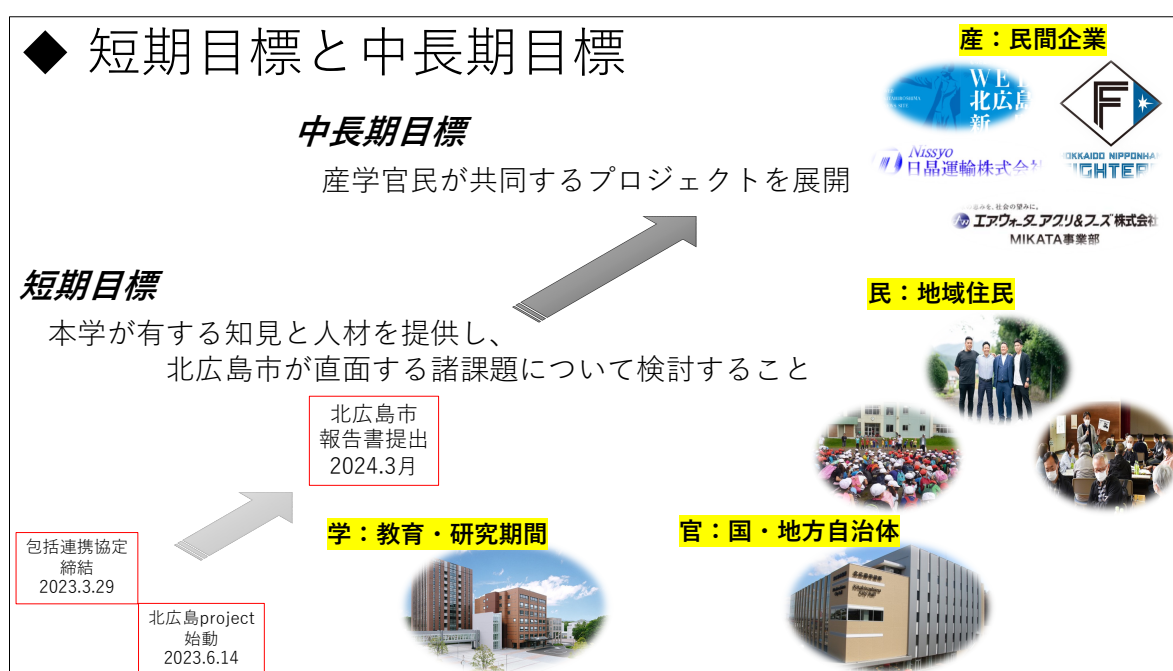


図1 北広島 Project における短期目標と中長期目標のイメージ

## II. 目的

そこで本研究では、学生が能動的学習（アクティブラーニング）を展開するなかで北広島市の活性化、支援事業、人材育成、産業・学術・文化の振興に関する一資料を得ることに加え、学生の汎用的な能力および課題解決能力の向上を検討することを目的とした。

### Ⅲ. 研究方法

#### Ⅲ-1. 調査対象

調査対象者は、本プロジェクトに任意参加の意思を示した8名の学生（以下「プロジェクトメンバー」と略す）とした（表1）。プロジェクトメンバーの募集については、2023年4月27日（木）に札幌国際大学2号館2階211教室（創風）にて、スポーツ人間学部の1～4年生を対象に本プロジェクトの主旨説明を行なった（図2,3）。その後、Microsoft 365 Forms を活用して作成した募集要項 QR コードの提示および資料配布にて周知した。なお、募集期間は2023年4月27日（木）～5月8日（月）とした。

表1 調査対象者の詳細

学年	性別		合計
	男性	女性	
1年生	1	2	3
2年生	1	3	4
3年生	2	0	2
	4	5	9



図2 主旨説明スライド①



図3 主旨説明スライド②

### III-2. 北広島プロジェクトが目指すアクティブラーニングの視点に立った取り組み

「アクティブ・ラーニング」と「アクティブラーニング」は、中黒（・）の有無に応じて中央教育審議会&文部科学省主導の言語（前者）なのか教育改革のキーワードとして用いる言語（後者）なのかによって使い分けが必要となる。

まず、中央教育審議会（2012）が示す「アクティブ・ラーニング」であるが、教員による一方向的な講義形式の教育とは異なり、学修者の能動的な学修への参加を取り入れた教授・学習法の総称とされる。そのため、アクティブ・ラーニングは、学修者が能動的に学修することによって、認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図ることと定義されている。ここでいう能動的な学習は、発見学習、問題解決学習、体験学習、調査学習等が含まれるが、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループ・ワーク等によって実現を目指すものである。

つまり、中央教育審議会（2012）が示す「アクティブ・ラーニング」は、①教育課程内での学修であり、②求められる技能・態度（能力）を育てるための手段としての位置づけにあることが窺える。

次に教育改革のキーワードとして用いられる「アクティブラーニング」は、一方向的な知識伝達型講義を聴くという（受動的）学習を乗り越える意味での、あらゆる能動的な学習のことと定義される（溝上，2014）。能動的な学習には、書く・話す・発表する等の活動への関与と、そこで生じる認知プロセスの外化を伴う。なお、認知プロセスとは、知覚・記憶・言語・思考といった心的表象としての情報処理プロセスのことを指しており、「思考」には、論理的 / 批判的 / 創造的思考、推論、判断、意思決定、問題解決などがある。

したがって、教育改革のキーワードとして用いられる「アクティブラーニング」(溝上, 2014)は、「学校教育から一般社会への円滑な移行を実現するための方策」としての位置づけにあることが窺える

ここまで「アクティブ・ラーニング」(中央教育審議会, 2012)と「アクティブラーニング」(溝上, 2014)の位置づけについて述べてきた。両者の共通点と相違点それぞれあげるならば、前者(共通点)は、いずれにおいてもパッシブラーニング(講義等を聞くだけといった受動的学習)からの脱却を意図していることが窺える。後者(相違点)に関しては、「アクティブ・ラーニング」(中央教育審議会, 2012)が、「認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力」が育つような成果(アウトカム)ベースの活動(技能や態度の育成)に留まる。その一方、「アクティブラーニング」(溝上, 2014)は、活動への関与と認知プロセスの外化を示すことから「アクティブ・ラーニング」(中央教育審議会, 2012)が有する「技能や態度の育成」に加えて「認知プロセスの外化」すなわちアウトプットを目指していることがわかる。

この北広島プロジェクトは、北広島市と札幌国際大学の包括連携協定の下、北広島市の地域振興に意欲を有する学生が主体となって課題発見およびその解決に取り組むことを趣旨としている。つまり、このプロジェクトは、学生にとって大学から学びのフィールドを地域に広げて活動していく中で、北広島市が有する魅力や資源、課題について調べ上げ、学生にとっての主体的あるいは対話的な学びを通じた「技能や態度の育成」と、「認知プロセスの外化」を目指した実学的な学びの機会の提供することを狙いとしている。それは、単に授業に出席することや単位を修得することに関わる教育活動とは一線を画すものであり、これから先の教育の在り方を先進的に体現し得る取り組みであるともいえるだろう。

以上のことから、北広島プロジェクトが目指す学生の主体的な学びは、教育改革のキーワードとして用いられる「アクティブラーニング」(溝上, 2014)の様相が反映されているといえる。

### III-3 調査方法の検討

本項および次項では、参加学生の学修成果の検証に取り組むべく、成果の検証方法について検討する。

アクティブラーニングにおける「技能や態度の育成」は、学修者が能動的に学修することによる認知的、倫理的、社会的能力、教養、知識、経験を含めた汎用的能力の育成を図ることと定義されている(中央教育審議会, 2012)。これらの要素をそれぞれまとめていくと、①認知的能力(課題解決のプロセスにおける各課題について適宜解決しながら目標達成)、②倫理的能力(良いことと悪いことの区別)、③社会的能力(他者との協力)、④教養(知識、課題の発見に必要な基礎知識 {例. 北広島市の概要と現状}、課題を見出す想起、問題点と課題の解釈、問題解決)、⑤知識、⑥経験(実学的な学び、実践)に区分けされる。これらは、質問紙調査法を適用することで、プロジェクト前後の変容から検討していくことが可能となる。



一方、「認知プロセスの外化」に関しては、前提とされる「技能や態度の育成」に基づくアウトプットの状況について検討していく必要がある。プロジェクトメンバーが、本プロジェクトでの活動を通して「いつ」「何が」「どのように」起こり、「何を」感じとって学びへ昇華させていったのかを検討していくことが求められる。この点を踏まえ、本報告書の成果検証においては、インタビュー調査を用いて、プロジェクトメンバーがプロジェクトに参加する中で生じ得た思考や見方・考え方の変容について検討することが可能となる。

以上を踏まえ、アクティブラーニングにおける「技能や態度の育成」と「認知プロセスの外化」について、前項で取り扱った中央教育審議会（2012）と溝上（2014）の見解を踏まえ、質問紙調査とインタビュー調査に大別して検討を試みる。

### III-4. 質問紙調査法の検討

質問紙調査に向けて、質問紙調査票に盛り込むべきアクティブラーニングにおける「技能や態度の育成」の構成要素は、下記の通り整理される。

#### ※質問紙調査票の構成要素

1. 認知的能力
2. 倫理的能力
3. 社会的能力
4. 教養
  - ・ 知識
  - ・ 課題の発見に必要な基礎知識
  - ・ 問題点と課題の解釈
  - ・ 課題を見出す想起
  - ・ 問題解決
5. 知識
6. 経験

本プロジェクトは、今年度発足したものであり成果検証の手法については確立した方法論が未だ存在しない。そこで、本報告書で示していく成果検証では、試験的にフェイスシート4問、北広島プロジェクトに対する意気込み（振り返り）2問、主体的な学びに取り組んだ内容の観点別評価6問の計12問からなる「主体的な学びおよび活動に対する自信度調査」を作成した。

また、「主体的な学びおよび活動に対する自信度調査」において設定した主体的な学びに取り組んだ内容の観点別評価6問では、①認知的能力、②倫理的能力、③社会的能力、④教養、⑤知識、⑥経験に関する自信度の変容に着目する。これらの自信度については、「主体的な学びに取り組む上で『〇〇』に対するあなたの自信の度合いを選択してください」という質問文を設定した。回答の選択肢は、①大変自信がある（問題提起・課題解決のノウハウを他者へ教えることができる）、②自信がある（問題提起・課題解決のノウハウを自身の活動に活かすことができる）、③自信がない（問題提起・課題解決について、何度か触れる機会があった）、④全く自信がない（問題提起・課題解決について、今まで全く触れた

ことがなかった)の4件法とした。

この「主体的な学びおよび活動に対する自信度調査」は、事前調査として2023(令和5)年6月14日、事後調査として2024年(令和6)年2月26日にそれぞれ実施した。「主体的な学びおよび活動に対する自信度調査」の具体的な設問と内容は次に示した通りである。

**2023(令和5)年度**  
**「主体的な学びおよび活動に対する自信度調査」**

**※基本情報調査の項目(フェイスシート)**

- Q1. あなたの学生番号を選択してください。  
Q2. あなたの氏名を選択してください。  
Q3. あなたの所属学科を選択してください。  
Q4. あなたの学年を選択してください。  
    ・1年    ・2年    ・3年    ・4年

**※北広島プロジェクトに対する意気込み(振り返り)**

- Q5. 「SIU×北広島プロジェクト(仮称)」の活動に対して  
    あなたが期待する(した)ことについて教えてください。  
Q6. 「SIU×北広島プロジェクト(仮称)」の活動を通して  
    あなたが挑戦したい(した)こと

**※本調査の項目**

あなたが自己や仲間との地域貢献事業を通した  
主体的な学びに取り組むことに先立ち(終えて)  
下記の質問項目に対する現在の自信の度合いに最も近いものを選択してください。

**Q7. 認知的能力**

主体的な学びに取り組む上で「提示された課題を適宜解決しながら目標達成すること」に対するあなたの自信の度合いを選択してください。

- ①大変自信がある(問題提起・課題解決のノウハウを、他者へ教えることができる)  
②自信がある(問題提起・課題解決のノウハウを、自身の活動に活かすことができる)  
③自信がない(問題提起・課題解決について、何度か触れる機会があった)  
④全く自信がない(問題提起・課題解決について、今まで全く触れたことがなかった)

#### Q8. 倫理的能力

主体的な学びに取り組む上で「良いことと悪いことを適切に区別すること」に対するあなたの自信の度合いを選択してください。

- ①大変自信がある（倫理観を、他者へ教えることができる）
- ②自信がある（倫理観を、自身の活動に活かすことができる）
- ③自信がない（倫理観について、何度か触れる機会があった）
- ④全く自信がない（倫理観について、今まで全く触れたことがなかった）

#### Q9. 社会的能力

主体的な学びに取り組む上で「学習集団の中での協調性や学習集団の中での積極性」に対するあなたの自信の度合いを選択してください。

- ①大変自信がある  
（集団での学習活動に関するノウハウを、他者へ教えることができる）
- ②自信がある  
（集団での学習活動に関するノウハウを、自身の活動に活かすことができる）
- ③自信がない  
（集団での学習活動について、何度か触れる機会があった）
- ④全く自信がない  
（集団での学習活動について、今まで全く触れたことがなかった）

#### Q10. 教養

主体的な学びに取り組む上で「小学校・中学校・高等学校での勉強や大学における学び」に対するあなたの自信の度合いを選択してください。

- ①大変自信がある（これまでの勉強や学びは、大変積極的に取り組んでいた）
- ②自信がある（これまでの勉強や学びは、積極的に取り組んでいた）
- ③自信がない（これまでの勉強や学びは、消極的な取り組みであった）
- ④全く自信がない（これまでの勉強や学びは、大変消極的に取り組んでいた）

#### Q11. 知識

主体的な学びに取り組む上で「自身の知見を学びに活かすこと」に対するあなたの自信の度合いを選択してください。

- ①大変自信がある（自身の知見を他者と共有して課題解決に活かすことができる）
- ②自信がある（自身の知見を自らの課題解決に活かすことができる）
- ③自信がない（自身の知見について、何度か考える機会があった）
- ④全く自信がない（自身の知見について、これまでに考えたことがなかった）

#### Q12. 経験

主体的な学びに取り組む上で「自身の経験をアウトプットすること  
(プレゼンテーション, 成果発表及び成果報告, プロダクション, 相互援助等)」  
に対するあなたの自信の度合いを選択してください。

①大変自信がある

(アウトプットのノウハウについて, 他者へ教えることができる)

②自信がある

(アウトプットのノウハウについて, 自身の活動に活かすことができる)

③自信がない

(アウトプットのノウハウについて, 何度か触れる機会があった)

④全く自信がない

(アウトプットのノウハウについて, 今まで全く触れたことがなかった)

以上のことから、アクティブラーニングにおける「技能や態度の育成」状況は、中央教育審議会(2012)が示す能動的学修を構成する要素(認知的, 倫理的, 社会的能力, 教養, 知識, 経験)の変容について検討することとした。そして、データ収集の方策として、質問紙調査法を採用することとした。

#### III-5. インタビュー調査法の検討

アクティブラーニングにおける「認知プロセスの外化」を検証するために、本プロジェクトにおいては、対象学生や関係者へインタビューを実施して、地域貢献事業を通じたアクティブラーニングの構造や本質を探索的に検討する。

また、インタビュー調査の対象は、プロジェクトメンバーの中から顕著な数値の変容を示したものを学年ごとに1名ずつ抽出し、半構造化インタビューおよび逐語録の作成に取り組むこととした。

#### IV. 活動報告

2023年度の北広島Projectの活動内容および学生の能動的学習（アクティブラーニング）について、以下に実施内容を報告する（図4）。

2023年度 北広島Project 年間スケジュール

4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
日	曜日	活動	日	曜日	活動	日	曜日	活動	日	曜日	活動	日	曜日	活動	日	曜日	活動	日	曜日	活動	日	曜日	活動
1	月		2	火		3	水		4	木		5	金		6	土		7	日		8	月	
8	火		9	水		10	木		11	金		12	土		13	日		14	月		15	火	
16	水		17	木		18	金		19	土		20	日		21	月		22	火		23	水	
24	木		25	金		26	土		27	日		28	月		29	火		30	水		31	木	
1	金		2	土		3	日		4	月		5	火		6	水		7	木		8	金	
9	土		10	日		11	月		12	火		13	水		14	木		15	金		16	土	
17	土		18	日		19	月		20	火		21	水		22	木		23	金		24	土	
25	日		26	月		27	火		28	水		29	木		30	金		31	土		1	日	
2	月		3	火		4	水		5	木		6	金		7	土		8	日		9	月	
10	火		11	水		12	木		13	金		14	土		15	日		16	月		17	火	
18	水		19	木		20	金		21	土		22	日		23	月		24	火		25	水	
26	木		27	金		28	土		29	日		30	月		31	火		1	水		2	木	
3	火		4	水		5	木		6	金		7	土		8	日		9	月		10	火	
11	水		12	木		13	金		14	土		15	日		16	月		17	火		18	水	
19	木		20	金		21	土		22	日		23	月		24	火		25	水		26	木	
27	金		28	土		29	日		30	月		31	火		1	水		2	木		3	金	
4	土		5	日		6	月		7	火		8	水		9	木		10	金		11	土	
12	土		13	日		14	月		15	火		16	水		17	木		18	金		19	土	
20	日		21	月		22	火		23	水		24	木		25	金		26	土		27	日	
28	月		29	火		30	水		31	木		1	金		2	土		3	日		4	月	
5	火		6	水		7	木		8	金		9	土		10	日		11	月		12	火	
15	土		16	日		17	月		18	火		19	水		20	木		21	金		22	土	
23	日		24	月		25	火		26	水		27	木		28	金		29	土		30	日	
31	月		1	火		2	水		3	木		4	金		5	土		6	日		7	月	
8	土		9	日		10	月		11	火		12	水		13	木		14	金		15	土	
16	日		17	月		18	火		19	水		20	木		21	金		22	土		23	日	
24	月		25	火		26	水		27	木		28	金		29	土		30	日		31	月	
1	火		2	水		3	木		4	金		5	土		6	日		7	月		8	火	
11	土		12	日		13	月		14	火		15	水		16	木		17	金		18	土	
21	日		22	月		23	火		24	水		25	木		26	金		27	土		28	日	
29	月		30	火		31	水		1	木		2	金		3	土		4	日		5	月	
6	土		7	日		8	月		9	火		10	水		11	木		12	金		13	土	
14	日		15	月		16	火		17	水		18	木		19	金		20	土		21	日	
22	月		23	火		24	水		25	木		26	金		27	土		28	日		29	月	
30	火		31	水		1	木		2	金		3	土		4	日		5	月		6	火	
8	土		9	日		10	月		11	火		12	水		13	木		14	金		15	土	
18	日		19	月		20	火		21	水		22	木		23	金		24	土		25	日	
26	月		27	火		28	水		29	木		30	金		31	土		1	日		2	月	
3	火		4	水		5	木		6	金		7	土		8	日		9	月		10	火	
13	土		14	日		15	月		16	火		17	水		18	木		19	金		20	土	
23	日		24	月		25	火		26	水		27	木		28	金		29	土		30	日	
31	月		1	火		2	水		3	木		4	金		5	土		6	日		7	月	
8	土		9	日		10	月		11	火		12	水		13	木		14	金		15	土	
16	日		17	月		18	火		19	水		20	木		21	金		22	土		23	日	
24	月		25	火		26	水		27	木		28	金		29	土		30	日		31	月	
6	土		7	日		8	月		9	火		10	水		11	木		12	金		13	土	
14	日		15	月		16	火		17	水		18	木		19	金		20	土		21	日	
22	月		23	火		24	水		25	木		26	金		27	土		28	日		29	月	
30	火		31	水		1	木		2	金		3	土		4	日		5	月		6	火	
8	土		9	日		10	月		11	火		12	水		13	木		14	金		15	土	
16	日		17	月		18	火		19	水		20	木		21	金		22	土		23	日	
24	月		25	火		26	水		27	木		28	金		29	土		30	日		31	月	
6	土		7	日		8	月		9	火		10	水		11	木		12	金		13	土	
14	日		15	月		16	火		17	水		18	木		19	金		20	土		21	日	
22	月		23	火		24	水		25	木		26	金		27	土		28	日		29	月	
30	火		31	水		1	木		2	金		3	土		4	日		5	月		6	火	

図4 2023年度年間活動実施表

#### IV-1. 定例ミーティング

学生が定期的に集まり、進捗状況や今後の活動について打ち合わせ等を行う「定例ミーティング」を設定した。

定例ミーティングは、学生と教員1名以上が参加する形で実施した。実施回数は6月から3月までの9ヶ月間で20回であった。定例ミーティングにおける教員の役割としては、外部からの情報の伝達および全体の方向性を示すことの2点とし、進行および話し合いの内容については学生に一任した。また、定例ミーティング終了後の約束事として、必ず議事録を作成させ、毎回の報告資料を提出させた（図5.6.7）。

そして、定例ミーティングに加え、学生が自主的に集合する機会を設け、必要に応じて学生のみでミーティングを実施していた。なお、学生のみで実施するミーティングに約束事はなく、議事録の作成、教員の参加も不要とした。



図5 定例ミーティングの様子①



図6 定例ミーティングの様子②

北広島 project ミーティング

2023.7.19 (水) 16:30~19:00 札幌国際大学 2号館 7階

出席：平澤、安田、横山、澤田、天木、平緒、村本、大橋、石山、前川

欠席：宇佐美、木村（敬称略）

➤役割分担

勤務表：天木・大橋・前川

記録：村本・平緒・石山

写真：宇佐美・澤田・木村】

➤各自、北広島市の印象やイメージ、特徴、課題等発表

【教育関連】

- ・小中学校多く、高校は少ない、札幌に流れやすい
- ・全小中で電子黒板、ICT環境が良い
- ・小学の合併、クラス減

【土地関連】

- ・地価価値上昇
- ・ゴルフ場多い、森林面積多い、畑多い、自然豊か、観光農園、農業体験（北海道米）
- ・サイクリングロード、道のり下り多い、土地の特色が極端
- ・都市アクセス良い、手段少ない、バス等少ない
- ・レクリエーションの森、遊べる施設多い

【居住地】

- ・移住者向けのサイト（HP）
- ・スーパー多い
- ・ホープタクシー

➤話し合いまとめ

～若い人メインで北広島市によってもらう～

スポーツをメインとし、土地や自然、一次産業を通してまずは北広島市によってもらいたい！！

◎土地、自然、一次産業

○教育、アクセス系統（市内においても）←自転車があれば不便、住宅地の三極化→極端、若者の流失

➤タスク

- ・施設や土地を利用して行える、スポーツイベントや内容をふんわりと提案を考える。

➤次回打合せ

- ・次回の打合せは、8月3日（木）10:30～、2号館7階で行う  
8月4日（金）10:30～、2号館7階で行う

➤備忘録

- ・8・9月に北広島市へフィールドワーク（実地調査）を行う
- ・次回（7/19）にフィールドワークの日程と目的を検討する

文責：村本

図7 北広島プロジェクトのミーティング後に作成した議事録（例）

## IV-2. 意見交換会

学生と北広島 Project に関わる学外関係者との交流の場として、「意見交換会」を設定した。

意見交換会は、札幌国際大学で1回、北広島市役所で1回、Zoom を活用したオンラインが1回、合計3回実施した(図 8.9.10)。意見交換会では、教員が司会、進行を務め、学生と学外関係者のコミュニケーションが生じるようファシリテーションを行い、教員を介さない会話が創出される環境整備を意識した。

なお、日時、場所、人数などの詳細については、表2に示す通りである。

表2 意見交換会の詳細情報

実施日	場所	学外関係者
2023年8月30日	北広島市役所	北広島市役所職員 5名
2023年9月20日	札幌国際大学	北広島市役所職員 2名 北広島団地地域交流ホームふれて職員 1名
2024年1月24日	オンライン	北広島団地地域交流ホームふれて職員 2名



図8 北広島市役所にて意見交換会



図 9 札幌国際大学にて意見交換会



図 10 オンラインにて意見交換会



### IV-3. 企画発表

2023年8月30日(水)北広島市役所にて、学生のプレゼンテーション発表による企画発表の場を設定した。

企画発表の前段階として、学生個々が北広島市について文献調査を行い、定例ミーティングにて情報を共有し、課題の抽出とその課題解決に向けたテーマを設定した。学生たちが設定したテーマは『スポーツをメインとし、土地や自然、一次産業を通して、まずは北広島市に寄ってほしい！』であり、企画発表ではスポーツに関わる企画を検討することが決まった(図11.12)。その後、学生9名を3人1組の3グループに編成し、それぞれのグループでテーマに応じた企画検討およびプレゼンテーション資料の作成を行なうよう指示した。



図 11 企画検討の様子



図 12 企画発表の様子

#### IV-4. フィールドワーク

北広島市の実地調査として、同市内施設のフィールドワークを行なった。フィールドワーク先については、各グループの企画内容を基に、企画に合致した場所や環境、設備の観点から、北広島市総合体育館、北広島団地地域サポートセンター“ともに”、北広島レクリエーションの森の3箇所に選定した。

なお、フィールドワークは、北広島市役所職員に施設案内および施設職員との調整を依頼した。

#### IV-5. 共同プロジェクト

北広島市および北広島団地地域交流ホーム“ふれて”より、北広島団地地域サポートセンター“ともに”での「冬の運動会」イベントの提案があった。これまでの活動（意見交換、企画発表、フィールドワーク）を踏まえ、北広島市既存イベントに企画発表をブラッシュアップした内容を共同プロジェクトで展開することが決定した。

共同プロジェクト「冬の運動会」は、2024年2月17日（土）北広島団地地域サポートセンター“ともに”で開催された。学生の役割は、イベントを通じた地域住民との交流および午後の部で学生企画を実施することである（図13.14）。学生が企画、準備、運営までを担当し、主体的に活動する場を設定した。

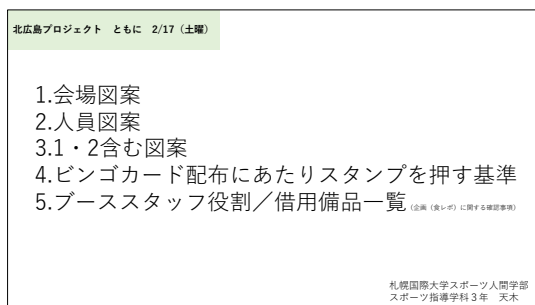


図13 学生企画資料①

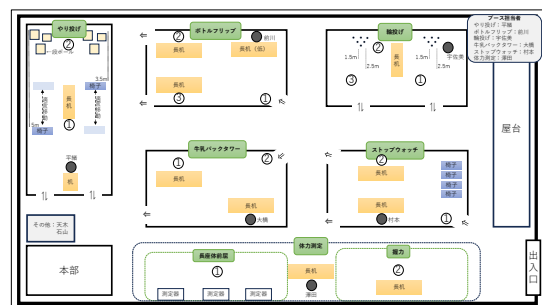


図14 学生企画資料②

## V. 研究結果

### V-1. 質問紙調査の結果

表3は、北広島プロジェクト事前に収集した「主体的な学びおよび活動に対する自信度調査」において設定した、「2023年度『SIU×北広島プロジェクト』の活動に対して期待すること」に対する自由記述式回答の結果を示している。

表3 2023年度「SIU×北広島プロジェクト」の活動に対して期待すること

対象者	2023年度「SIU×北広島プロジェクト」の活動に対してあなたが期待することを教えてください。
A	地元の北広島で課題を見つけ解決するということで、さまざまな視点を身につけていきたい。
B	さまざまな人との色々な関わり方、コミュニケーションの取り方や、計画的に進めて行く方法。
C	市の方と関わる機会があるので、自分の知らない目線での考え方もかもあると思うので、そういった部分に期待しています。
D	若い人が少しでも増えて、観光客が来る街。
E	主体的、客観的な考え方や、物事の様々な捉え方を見につけたい。 1つのプロジェクトに関わったことでの経験として、将来に役立つような知識や理解を深めたい。
F	経験を得ること
G	Fビレッジができたことによって、北広島へ行く人の人数や、北海道に来る人の人数がどのくらい増えるのか、そして北広島市がどれくらい発展していくのかを学びたいです。
H	北広島市の発展に携わることが非常に嬉しく思います。 このプロジェクトで様々な人と関わり、有意義な時間を過ごして自分の社会人としてのスキルアップを期待したいです

表4は、北広島プロジェクト事前に収集した「主体的な学びおよび活動に対する自信度調査」において設定した、「2023年度『SIU×北広島プロジェクト』の活動を通して挑戦したいこと」に対する自由記述式回答の結果を示している。

表4 2023年度「SIU×北広島プロジェクト」の活動を通して挑戦したいこと

対象者	2023年度「SIU×北広島プロジェクト」の活動を通してあなたが挑戦したいことを教えてください。
A	産学官民でイベントなど行い、北広島の良さを世界中に伝えてバズらせたい
B	北広島市に関して無知と言っているいいので、そこを色々な観点や視点から考えていきたい。
C	自分の考えを他者に向けて発信すること 周りとは違った目線で考えること
D	異年齢の人との関わりを増やしていく。
E	企画力、発言力、課題解決能力などを高めたい。
F	異年齢の方とのコミュニケーションを積極的にとること。
G	自分の考えや意見をたくさん発言できるよう頑張ります。 先輩方の足を引っ張らないよう努力します！！
H	調査して北広島市の未来を作り上げる。

表5は、北広島プロジェクト事後に収集した「主体的な学びおよび活動に対する自信度調査」において設定した、「2023年度『SIU×北広島プロジェクト』の活動に対して期待すること」に対する自由記述式回答の結果を示している。

表5 2023年度「SIU×北広島プロジェクト」の活動に対して期待していたこと

対象者	2023年度「SIU×北広島プロジェクト」の活動に対してあなたが期待していたことについて教えてください。
A	北広島市について知る。北広島市を多くの人に知ってもらおう。
B	北広島市市民との交流、学生が主になるプロジェクト。
C	北広島市の方との関わりを持てたりすることや北広島市について知ることが出来ること
D	自分自身で何かにチャレンジし、成功体験を得られること
E	コミュニケーション能力を鍛えること。計画、準備、実践などの力をつけること。
F	自分の経験値をあげること
H	エスコンに行けると思っていました。
H	北広島市役所の方と北広島の今後についての意見交換をたくさん行うこと

表6は、北広島プロジェクト事後に収集した「主体的な学びおよび活動に対する自信度調査」において設定した、「2023年度『SIU×北広島プロジェクト』の活動を通して挑戦したこと」に対する自由記述式回答の結果を示している。

表6 2023年度「SIU×北広島プロジェクト」の活動を通して挑戦したこと

対象者	2023年度「SIU×北広島プロジェクト」の活動を通してあなたが挑戦したことについて教えてください。
A	市役所の偉い人たちにプレゼンした。会話がうまく進むように発言した
B	プロジェクト全体を通して、全員に声をかける、まとめることを意識した。
C	自分から周りに情報を発信したり、状況を把握しながら動いたこと
D	市役所で自らプレゼンを実施したこと。
E	人との関わりかた
F	自分の主張をしっかりと伝えること
G	会議での発言、資料の作成など行いました。
H	資料作成、イベント企画を考えること全てが初めての体験だったので全て挑戦でした

表7および図15は、北広島プロジェクトの実施前後にそれぞれ取り組んだ「主体的な学びおよび活動に対する自信度調査」の結果をそれぞれ示している。

①認知的能力は、プロジェクト開始前が $3.00 \pm 0.76$ であったことに対し、プロジェクト実施後には $3.13 \pm 0.35$ と、0.13点の数値の向上が確認された。

②倫理的能力は、プロジェクト開始前が $3.50 \pm 0.52$ であったことに対し、プロジェクト実施後には $3.63 \pm 0.53$ と、0.13点の数値の向上が確認された。

③社会的能力は、プロジェクト開始前が $3.13 \pm 0.83$ であったことに対し、プロジェクト実施後には $3.25 \pm 0.71$ と、0.12点の数値の向上が確認された。

④教養は、プロジェクト開始前が $3.13 \pm 0.83$ であったことに対し、プロジェクト実施後には $3.25 \pm 0.71$ と、0.12点の数値の向上が確認された。

⑤知識は、プロジェクト開始前が  $3.38 \pm 0.52$  であったことに対し、プロジェクト実施後には  $3.25 \pm 0.71$  と、0.12 点の数値の低下が確認された。

⑥経験は、プロジェクト開始前が  $2.75 \pm 0.71$  であったことに対し、プロジェクト実施後には  $3.38 \pm 0.74$  と、0.63 点の数値の向上が確認された。

表 7 北広島プロジェクト前後の主体的な学びおよび活動に対する自信度調査の変容

主体的な学びおよび活動に対する自信度調査	N = 8			
		M		SD
認知的能力 (提示された課題を適宜解決しながら目標達成すること)	pre	3.00	-	0.76
	post	3.13	-	0.35
倫理的能力 (良いことと悪いことを適切に区別すること)	pre	3.50	-	0.53
	post	3.63	-	0.52
社会的能力 (学習集団の中での協調性や学習集団の中での積極性)	pre	3.13	-	0.83
	post	3.25	-	0.71
教養 (小学校・中学校・高等学校での勉強や大学における学び)	pre	3.13	-	0.83
	post	3.25	-	0.71
知識 (自身の知見を学びに活かすこと)	pre	3.38	-	0.52
	post	3.25	-	0.71
経験 (自身の経験をアウトプットすること)	pre	2.75	-	0.71
	post	3.38	-	0.74

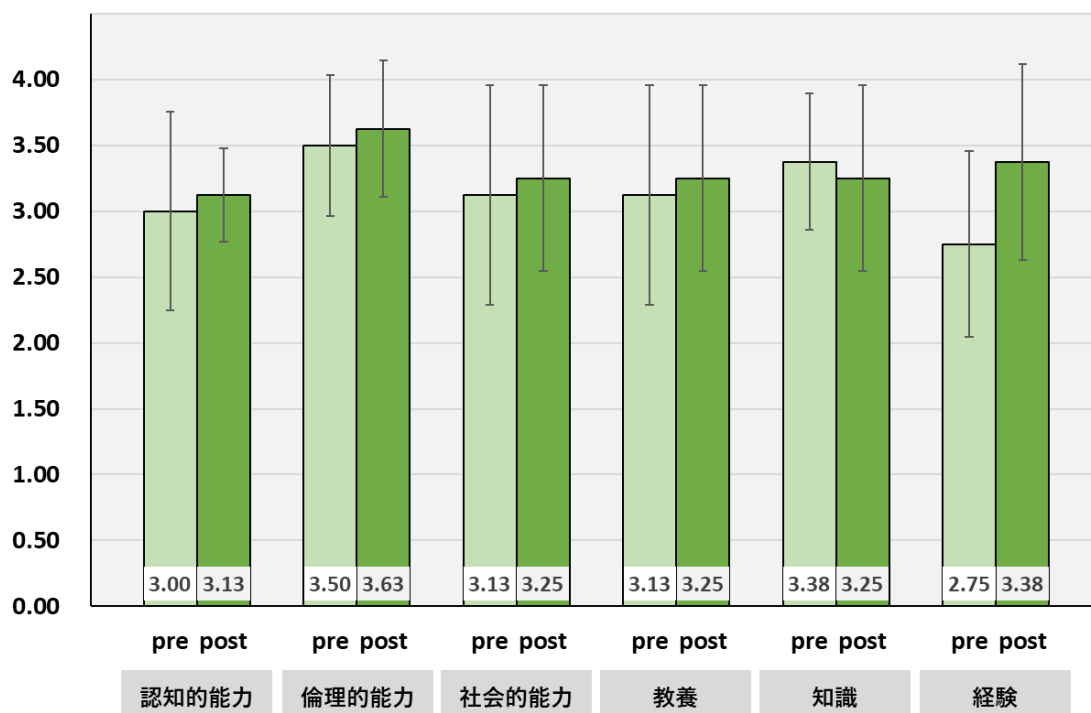


図 15 北広島プロジェクト前後の主体的な学びおよび活動に対する自信度調査の変容

## V-2. インタビュー調査の結果

前項で扱った質問紙調査の結果を踏まえ、プロジェクトメンバーの中から顕著な数値の変容を示したものを学年ごとに1名ずつ抽出し、半構造化インタビューおよび逐語録の作成に取り組んだ。

下記、学生Hを対象としたインタビュー①の逐語録である。

### 【インタビュー①・学生H】

質問者「このプロジェクトに参加したいと思った理由は」

学生H「ちょっと受験でいろいろあり、大学にすんなりとなじめない時期が続いたり、元来が明るく賑やかな性格が暗くなっていた。入学してから何もしないのも嫌だし、自分を変えるために積極的に活動してみたかった」

質問者「あなたが北広島市に抱いていた印象を聞かせて」

学生H「自分のマチより少し大きいぐらいなので『田舎だな』って言うのが素直な気持ち。また、なんでファイターズが札幌から移転してきたのか、その真相を知りたかった」

質問者「本プロジェクトは昨年6月からスタート。当初不安だったことはあったか」

学生H「全くなかった。リーダー的な存在になりたかった」

質問者「初めて市役所を訪れた時の気持ちと市側とのやり取りで気を付けた点は」

学生H「緊張した。初めて社会人に対したので。失礼のないように、怒らせないようにという気持ちは少しあった。」

質問者「当初のプレゼンテーションでやりたいと思ったものは何だったか」

学生H「自分たちはレクリエーションを企画した。2年生の先輩が授業でも展開しているモノを応用して企画発表した」

質問者「最終的に『ともに』のイベントに参画することが決定。企画・運営などに関して工夫した点や、イベントをやる前とやった後での気持ちの変化などはあったか」

学生H「自分はボトルフリップを担当した。小さな子どもたちには難易度が高かったとやっている途中から感じてしまった。スポーツはなんでもそうだが、成功して初めて面白味が湧くと思う。進行する自分が楽しめば周りにも広がる。次の機会があれば子供用のボトルを用意するなどの準備が必要となってくると感じる。また、早い段階ではルールや時間をきっちりと守ることを重点的に思っていたが、参加者の年齢層は幅広い。多少のずれや緩みはいいとする方がより楽しみを追求できる。あまり『公式戦』にとらわれず、『発表会』的な楽しさを求める方がやってい

る方もスタッフもいい雰囲気をつくり上げられる。やはりその部分が大切だと感じた」

質問者「本プロジェクトを通じて一番きつかったり迷った時期はあったか」

学生 H「初めて市役所を訪れてプレゼンテーションをしたとき。意気揚々と挨拶したり話したりを試みたができなかった。学生間でもやり取りでなく、社会の中で会議なのだと思った瞬間だった。このプロジェクトに入ったきっかけでもあったが、独りよがりでも何もまだ知らない1年生が現実を見せられたと感じ、今思えば恥ずかしい気持ちもある。」

質問者「あなたが今回のプロジェクトを通じてキーポイントだったことはどんなものだったか」

学生 H「本番が間近に迫った学内リハーサルの時、3年生の先輩方からの的確な指摘とイベントに向かう対策を教えられた。自分なりに想定していたことがすべてにおいて甘いことをしっかりと教えてもらった。次につながる『学び』となった」

質問者「次年度への意気込み」

学生 H「もちろんやりたい。すべてにおいて悔いが残っている。意見ができない、行動に表せないばかり。このままでは終われない」

質問者「北広島プロジェクトが近未来取り組んでみたいと思うものはあるか」

学生 H「夏場のイベントを企画というだけではなく、大学主催としてやってみたい。また、政治に興味があるのでぜひ市議会を傍聴したり、市長や市議会議員との意見交換会をやって、今の若者の声を聴いてほしい。その中から北広島市などが取り組むべき課題を見つけたい」

下記、学生 D を対象としたインタビュー②の逐語録である。

#### 【インタビュー・学生 D】

質問者「このプロジェクトに参加したいと思った理由は」

学生 D「ボールパークができた北広島と何かができる。そんな期待があったから」

質問者「あなたが北広島市に抱いていた印象を聞かせて」

学生 D「国道沿いはアウトレットモールのイメージが強く、マチ自体がわからなかったが、今回絡んでみて住宅がたくさんあった。学生もそうだが通勤・通学に十分な圏内だと改めて感じた」

質問者「本プロジェクトは昨年6月からスタート。当初不安だったことはあったか」

学生D「なかったし、ワクワク感の方がずっと勝っていた」

質問者「初めて市役所を訪れた時の気持ちと市側とのやり取りで気を付けた点は」

学生D「ただただ緊張した。しかし、人間は第一印象が非常に重要だと思い、常に笑顔で接することを心掛けた。普段もそうだが、その後も自分自身はずっと続けている」

質問者「当初のプレゼンテーションでやりたいと思ったものは何だったか」

学生D「レクリエーション授業を受けており、大学での学びから北広島の方々との触れ合いに十分に繋げられると感じたので推した。単純な動作だけでもしっかりと時間の中で楽しめるものだったと思った」

質問者「最終的に『ともに』のイベントに参加することが決定。企画・運営などに関して工夫した点や、イベントをやる前とやった後での気持ちの変化などはあったか」

学生D「新聞紙を細長く丸めてのやり投げを行った。実際はどなるのか想像がつかなかったし、意外と（的である箱の中に）入らなかったが、そのマイナスポイントが逆に老若男女問わずに受けた。イベントとしては笑顔が飛び交い、良いブースとなった。一番大きかったと感じたのは人とのつながり。我々の本番は午後の時間帯だったが、午前中のイベントにも参加することでコミュニケーションを構築でき、午後につながったと思う」

質問者「本プロジェクトを通じて一番きつかったり迷った時期はあったか」

学生D「一時期、目的意識が薄らいだ時期があり、自分はどうしたら良いのかを迷った時でもあったかと思う。しかし、徐々に目指すべきものが定まってチームとして取り組むこと修正できた気がする」

質問者「あなたが今回のプロジェクトを通じてキーポイントだったことはどんなものだったか」

学生D「チーム内の先輩たちからの期待の大きさはとても感じる。『あなたしかいないでしょ』という言葉が節目、節目で投げかけられる。2年生になって特に人前に出ることが増えた。今後はわからないが、しっかりと自分の中でかみ砕けるようにしっかりと歩んでいきたい」

質問者「次年度への意気込み」

学生D「今は『燃え尽き症候群』のような感じ。イベントで全精力を傾け、やり切った感があるので正直って現在は6：4ぐらい。落ちている状態なので、しっかりと



リフレッシュして改めて考え直したい。決してやりたくないということではない」

質問者「北広島プロジェクトが近未来取り組んでみたいと思うものはあるか」

学生 D「大学と北広島市に住む方々すべてが知っているイベントに成長してほしい。そして規模は小さくても良いので対象年齢を絞ってこちら主催の夏のイベントをやりたい」

下記、学生 A を対象としたインタビュー③の逐語録である。

**【インタビュー・学生 A】**

質問者「このプロジェクトに参加したいと思った理由は」

学生 A の「やはり『市民』ということは参加への追い風になったし、やってよかった」

質問者「あなたが北広島市に抱いていた印象を聞かせて」

学生 A「市民として B P 決定時は『まさか』という思いがありましたが、とても注目されて良かった。ただ、全市民がファイターズに縁があるわけではないし、ついていけない感じを受けます」

質問者「本プロジェクトは昨年 6 月からスタート。当初不安だったことはあったか」

学生 A「不安はなかったが、正直なにをするんだろうという思いがあった」

質問者「初めて市役所を訪れた時の気持ちと市側とのやり取りで気を付けた点は」

学生 A「自分がプレゼンテーションをする役目だったので緊張した。PP は得意ではなかった周りにフォローされながらなんとかできた。ずらりと役職がある方々が座っていたのでやはり緊張した」

質問者「最終的に『ともに』のイベントに参画することが決定。企画・運営などに関して工夫した点や、イベントをやる前とやった後での気持ちの変化などはあったか」

学生 A「まだまだ見えていない部分がたくさんあった。どんなときでも自分は楽しめた。ただ、想像より人が集まり切れなかったと感じるし、参加の中には重度の障害を持った方、握力ゼロのご高齢者がいた。課題は明確でその部分を専門家から対処法などを事前に聞き出すなどの準備はできるはず」

質問者「本プロジェクトを通じて一番きつかったり迷った時期はあったか」

学生 A「もっと勉強するべきだが、プレゼン用のパワーポイントをもっとしっかりと勉強しなければならない」

質問者「あなたが今回のプロジェクトを通じてキーポイントだったことはどんなものだったか」

学生 A「同期の学生 B の存在。本番が近づくにつれ普段にも増し、より真剣味が増した。このプロジェクトに懸ける思いがヒシヒシと伝わり、襟を正すことの必要性を感じた。オンオフのスイッチ切り替えが見事だし、存在感がある。彼こそリーダーだと感じる」

質問者「次年度への意気込み」

学生 A「いまは見事に一体感がある。それを継続していければ、と考える」

質問者「北広島プロジェクトが近未来取り組んでみたいと思うものはあるか」

学生 A「もっとほかの所から北広島に来てくれるようなイベントがしたい。さらに若い世代を取り込みたい。そうすれば大学への関心も強まると感じる。しかし、簡単な事ではないのでしっかりと方策を練ること、分析・検証することが必要になってくる。」

## VI. 考察

### VI-1. 質問紙調査の考察

質問紙調査の結果を踏まえると、6項目中5項目（①認知的能力、②倫理的能力、③社会的能力、④教養、⑥経験）の数値の向上が確認された。事前調査の段階において、⑥経験を除く項目の平均得点が3.00を示していたことから、プロジェクトメンバーの主体的な学びおよび活動に対する自信はある程度の基盤が整っている中でプロジェクトが遂行されていったことが推察される。

①認知的能力では、提示された課題を適宜解決しながら目標達成することの自信度についてプロジェクトメンバーから回答を募った。プロジェクトの前後において、僅かながらでも数値の向上が確認できたことから、プロジェクトメンバーは本プロジェクトの遂行を通して、認知的能力に関する自信を身に付けていったことが窺えた。

②倫理的能力では、物事の良し悪しを適切に区別することに対する自信度についてプロジェクトメンバーから回答を募った。プロジェクトの前後において僅かに数値の向上が確認されたことから、プロジェクトメンバーは本プロジェクトの遂行を通じて、倫理的能力に関する自信を身につけていったことが窺えた。

③社会的能力では、学習集団の中で協調性や学習集団の中での積極性に対する自信度についてプロジェクトメンバーから回答を募った。プロジェクトの前後において僅かに数値の向上が確認されたことから、プロジェクトメンバーは本プロジェクトの遂行を通じて、社会的能力に関する自信を身に付けていったことが窺えた。

④教養では、小学校・中学校・高等学校での勉強や大学における学びに対する自信度についてプロジェクトメンバーから回答を募った。プロジェクトの前後において僅かに数値の向上が確認されたことから、プロジェクトメンバーは本プロジェクトの遂行を通じて、勉強や学びに関する自信を身に付けていったことが窺えた。

⑥経験では、自身の経験をアウトプットすることに対する自信度についてプロジェクトメンバーから回答を募った。プロジェクトの前後において他の項目と比較しても顕著な数値の向上が確認されたことから、プロジェクトメンバーは本プロジェクトの遂行を通じて、自身の経験をアウトプットしていくことに関する自信を身に付けていったことが窺えた。経験に関する数値の向上の背景として、プロジェクトメンバーの学生は、北広島市という地域の特色や課題について学び、地域特有の利点や課題についてグループ・ディスカッションやディベートを繰り返しながらブラッシュアップに取り組んでいったことがあげられる。特に、本プロジェクトは学生主体としつつも議事録の作成を必須の事項として位置づけ、検討や作業の進捗状況を逐一プロジェクトメンバーの誰もが確認していける状況を作り上げた。その上で、北広島市との打ち合わせやプレゼンテーション、「ともに」における地域の運動会の企画運営に携わっていった経験は、まさに実学的な学びを体現するものであったと考えられる。

一方で、⑤知識では、自身の知見を学びに生かすことに対する自信度についてプロジェクトメンバーから回答を募ったものの、プロジェクトの前後においては他の項目と異なり、

僅かながらではあるものの数値の低下が確認された。詳細について確認をした所、プロジェクトメンバー8名中3名の評価がプロジェクト前後で低下していることが確認された。

3名の⑤知識に関する数値の低下が起こっていたことを踏まえると、プロジェクトメンバーが元々有する知見と北広島プロジェクトが掲げる地域振興のための施策との照らし合わせにおいて何かしらのエラーが生じていたと考えられる。このことから、プロジェクトメンバーの⑤知識に関する自信度の向上に際しては、担当教員による課題の難易度調整に改善の余地が残されていると推察される。

## VI-2. インタビュー調査の考察

研究結果として本プロジェクトに参加した学生の中から3人を選出し、インタビュー形式による調査を行った。選出方法は、①各学年から1人ずつ、②今回のプロジェクトにおいて取り組みや考察に関して変化が見られた学生、③性別に偏らず男子学生2人、女子学生1人をそれぞれ選んだ。半構造化インタビュー調査から読み取れた結果を示す。

### 【インタビュー①・学生H】

今年度、新入生として大学に進学した男子学生である。入学後から各科目において優秀な成績を取め、利発ではあるが物事の捉え方やレポートなどからは真っすぐに物事を受け止めず、斜に構えた姿が多く見受けられた。また、協調性がないわけではないが孤立した行動も見られた学生であった。しかし、本プロジェクトに積極的に立候補した。当初はイベントに向けての企画・立案では人任せの状況が発生し、なかなか自分の行動や意見を通せなかった。しかし、具体的にチームワークとして進捗するにつれ、自発的な行動や話し合いからの言動が見られるようになった。インタビュー内でもあるように大学受験において一つの屈折を経験し、そこから脱却～切り替えがうまくできないまま大学生活がスタートしたようだが、このプロジェクトを通して得たかけがえのない「つながり」と「輪」の中に自分をしっかりと見つけ出した。特に最上級生であった3年男子学生から受けた叱咤激励は彼の中で大きな化学反応を引き起こし、自分の物足りなさを痛感し、自分自身の役割を見つけ出すきっかけに繋がった。この頃から表情や動き、さらに仲間とのやり取りに変化が生まれ、イベント直前ではブース担当として責任ある立場にもなり、化学反応は鋭角なプラス変化をもたらした。次年度は真っ先に「継続」の姿勢を見せ、自分が物足りなかった点を「悔い」と表現しながら、今後は同市の議会、政策に関しての興味も湧き、新たな挑戦のシナリオをすでに描いていた。

### 【インタビュー②・学生D】

大学生活も折り返しを迎えた2年生の女子学生である。普段から本学のイベントなどではリーダー学生として活躍し、教職を目指し学んでいる明朗快活な学生である。本プロジェクトへの参加は大注目であったプロ野球・北海道日本ハムファイターズ所有のボールパークが鎮座する同市と何かができるのでは、という期待感からの参加となった。学内で定

期的に開催されるミーティングなどでも積極的な意見や企画、また同市を調査する上で、常に自らが大学での学びに結びつけるアイデアを考えるなど、参加者が「笑顔」になるイベント構築に向け、動いていた。しかし、方向性を定めても一人一人からはさまざまな意見が飛び交い、時には「目的意識が薄らいだ時期もあった」と振り返ったが、そのたびに彼女の中で「気づき」が生まれ、「検証」へと結びつける前向きさがあった。各々の違う意見もすべては良いものをつくり出すための建設的な意見交換だという根幹をぶらさず、一步一步と歩みを進めていった。さらに迷ったときには学生 A 同様に先輩学生から「(やれるのは) あなたしかいないでしょ」という言葉が節目、節目で支えとなり、強固なチーム作りにつながられた。今後については「(現在は) やり切ったことでの燃え尽き症候群のような感じ」だと表現した。裏を返せば、1年かけての取り組みに対して、より全力を傾けられた証拠でもある。「夏場のイベントもやりたい」という別テーマはすでに持ち合わせているので、自分の中でのクリーニング作業を施した先に次年度への熱い気持ちは傾いていくだろう。

#### 【インタビュー③・学生 A】

プロジェクトメンバーの中で最上級生となる3年生の男子学生である。北広島市は生まれ育った「地元」である。同市の歴史を含め、すべての環境などを普段から肌身で感じ取っており、本プロジェクトが前に進むためのまさにキーパーソンの存在であった。また、「マチが注目されることは良かったが、全市民がファイターズと縁があるわけではなく、ついていけない感じも受ける」とボールパークがやってきた経緯やここ数年で大きな変化を遂げてきた同市を住民として冷静に見つけてきた一人でもあり、説得力ある考えを披露していた。最初の北広島市役所でのプレゼンテーションでは自己紹介で同市職員から注目を浴び、堂々とした発表は本プロジェクトの貴重な1ページを記してくれた。その後は同期であるのもう1人の3年学生(男子)とうまくバランスをとりながら全体をまとめていった。組織やチームは各自の持ち場や役割が明確であればあるほど尊敬や尊重が生まれ、世代を超えた絆が発生していくものである。最高の旗頭であり、先鋒役であり、まとめる力も大いに発揮してくれた。地元出身というプレッシャーは確実にあったかと思うが、そこをうまく活かしての取り組みと活躍は目を見張るものが合った。故郷に対しての思いは他のメンバーや本学、さらに同市関係者に非常に有効なビタミン剤になったと感じる。メンバーがより同市を身近に据えられる起点は彼の存在から発生したと言っても過言ではない。新年度から4年に進級するが、初年度の活動を終え、存在意義は貴重であり、本人も若い世代を取り込んだイベントという新たなテーマを口にしていた。

以上、インタビュー考察から3名の言動や思考、イベント実施による変化や新たな気づきである。プロジェクト初年度を終えた学生の心境から本プロジェクトの伸びしろは広く深く、さらに多くの世代を巻き込んでいける可能性は十分だろう。

## Ⅶ. まとめ

本研究では、学生が能動的学習（アクティブラーニング）を展開するなかで北広島市の活性化、支援事業、人材育成、産業・学術・文化の振興に関する一資料を得ることに加え、学生の汎用的な能力および課題解決能力の向上を検討することを目的とした。

学生が能動的学習（アクティブラーニング）を展開するなかで、北広島市の課題調査と解決に向けた活動（定例ミーティング、企画発表、意見交換会、フィールドワーク、共同プロジェクト）から、北広島市に振興に関する資料及び知見を得ることができた。特に、北広島団地地域サポートセンター“ともに”で開催された「冬の運動会」共同プロジェクトは、地域の既存イベントに対する本学が有する人的および知見の支援事業として成立した一例であると考えられる。加えて、北広島市内の地域施設での開催は、北広島市の活性化に貢献したことが考えられる。

また、学生の汎用的な能力および課題解決能力の向上については、質問紙調査の結果を踏まえると、6項目中5項目（①認知的能力、②倫理的能力、③社会的能力、④教養、⑥経験）の数値の向上が確認された。このことから、プロジェクトメンバーの主体的な学びおよび活動に対する自信はある程度の基盤が整っている中でプロジェクトが遂行されていたことが考えられる。

以上のことから、学生の能動的学習（アクティブラーニング）を展開した本プロジェクトの活動が、北広島市の振興および学生の汎用的な能力および課題解決能力の向上に寄与することが示唆された。

## Ⅷ. 今後の展望

包括連携協定を締結した初年度の活動では、北広島市の官民連携に加え、札幌国際大学が有する教育機関の知見や人材（学生）を提供する一つの形を作ることができた。

今後は、この形を継続することを基軸に、さまざまな共同プロジェクトを展開することや新規イベントの企画に繋げていくことが第二段階であると考えられる。そのなかで双方の関わり方をブラッシュアップし、安定的な展開を継続したうえで、将来的には民間企業も交えた産学官民が共同するプロジェクトに発展させていくことが目標である。

## 引用参考文献

- 1) 中央教育審議会(2012)新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて(答申). [https://www.mext.go.jp/component/b\\_menu/shingi/toushin/\\_\\_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048\\_1.pdf](https://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/__icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf) . (参照日 2024 年 3 月 29 日).
- 2) 北海道北広島市ボールパーク特設サイト. <https://www.city.kitahiroshima.hokkaido.jp/ballpark/detail/00130860.html> . (参照日 2024 年 3 月 29 日).
- 3) 溝上慎一 (2014) アクティブラーニングと教授学習パラダイムの転換. 東信堂.
- 4) 文部科学省公式 HP. [https://www.mext.go.jp/b\\_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm](https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/1325047.htm) . (参照日 2024 年 3 月 29 日).
- 5) 日本アクティブ・ラーニング学会. アクティブ・ラーニング研究 Vol.1 2020. [https://jals2030.net/wp-content/uploads/2020/03/active\\_learning\\_kenkyu\\_Vol.1.pdf](https://jals2030.net/wp-content/uploads/2020/03/active_learning_kenkyu_Vol.1.pdf) . (参照日 2024 年 3 月 29 日).
- 6) 日本アクティブ・ラーニング学会. アクティブ・ラーニング研究 Vol.2 2022. [https://jals2030.net/wp-content/uploads/active\\_learning\\_kenkyu\\_Vol.2\\_ver1.0.3.pdf](https://jals2030.net/wp-content/uploads/active_learning_kenkyu_Vol.2_ver1.0.3.pdf) . (参照日 2024 年 3 月 29 日).
- 7) 札幌国際大学公式 HP. <https://www.siu.ac.jp> . (参照日 2024 年 3 月 29 日).
- 8) スポーツ庁 公式 HP.[https://www.mext.go.jp/sports/b\\_menu/sports/mcatetop01/list/1372413.htm](https://www.mext.go.jp/sports/b_menu/sports/mcatetop01/list/1372413.htm) . (参照日 2024 年 3 月 29 日).